

# 未来を描く

No.2

生徒指導担当：王子明紀

みんなで目的(希望)におかきましょう



## 1 ステイホームは目的ではありません



兵庫県に3度目の緊急事態宣言が発令されました。日常生活に様々な制限が加わることにきゅうくつさを感じたり、不安や不満を抱えたりしている人もたくさんいます。その気持ちはわかります。わかった上で、緊急事態宣言下の生活について考えてみたいのです。

緊急事態宣言下の生活とは、「がまん」の生活です。しかし、「がまん」すること、させることが目的になるとおかしなことになります。「がまん」は目的になりません。なぜなら、「がまん」には希望がないから、未来がみえないからです。

私は、昨年度の4月、5月の休校中の出来事の細かな記憶がありません。初めて経験する対応に右往左往していた記憶はあるものの、今となってみれば夢の中の出来事のように。おそらく、あの時を思い出したくないのだと思います。みなさんがいない、授業ができない生活はあまりに辛すぎました。学校生活でいえば、3年生の総体が代替大会になり市内大会で引退になってしまったこと、私生活でいえば、息子のめざしていた甲子園大会がなくなったことがとても辛かったです。あのような日々はもういやです。

だから私には「がまん」する明確な目的があります。私にとっては、みなさんとともに過ごせる日常の学校生活をできるだけ守ることが目的です。そのためならば、「がまん」ができます。みなさんにとって「がまん」する目的とは何でしょうか。3年生は修学旅行に行くため、部活動の大会が開かれて自分のこれまでを力いっぱいぶつけるため、1、2年生にとっては友だちと学校で何気ない話をするためでもよいのです。「がまん」は目的ではありません。目的をかなえるための手段です。すごくしんどいけれど、ストレスだけど、誰かにいら立ちをぶつけたくなる毎日になるけれど、目的は忘れないようにしましょう。みなさんからすれば、子どもばかりがガマンさせられていると思うこともあるかもしれません。テレビをみれば、公園や駅前でお酒を飲んで騒いでいる人がいます。それをみて私は思うのです。それは、あなたの本当にしたいことですか、それがあなたの生きる目的ですかと。あの人たちは、本当はお酒を飲むことではなく、誰かとつながっている実感がほ

しいのかもしれませんが。コロナウィルスは、人と人の関係性を変えました。孤独への漠然とした不安があのような大人の姿になっているのではないのでしょうか。

学校がなくなってしまうえば、大人を感じる以上の孤独をみなさんに感じさせてしまうでしょう。自分の力を発揮する場所や人とのつながりを感じる場面がなくなることは、無力感を生み出してしまいます。みなさんと100%の学校生活ではないけれど、大切な日常を守りたいのです。テレビで報道される大人以外に、地道に「がまん」をして大変な思いをしながら日常生活を守ろうとしている人もいます。みんなの力でのりこえましょう。

ゴールデンウィークのステイホームをお願いします。今は、人と人との物理的な関係を減らすことが必要であると専門家は訴えています。あなたが大丈夫でも、友だちが大丈夫でも、あなたとあなたの家族とつながっている人々はたくさんいます。だからこそ、目的をかなえるために今できる手段として、ステイホームする「がまん」をお願いします。

## 2 たいしたことはない、自分は大丈夫と思わない

「正常性バイアス」というものがあります。それは、大災害などで「自分は大丈夫」と根拠もなく思い込むことで、過度なストレスを回避しようとする心の動きです。その結果、災害時の避難が遅れて命を失うという悲劇が起こることがあります。

緊急事態宣言が3回も出されるのは、「大丈夫でない」からです。ちなみに昨年4月24日は兵庫県の1日の新規感染者は26人でした。今年は、635人です。少なくとも昨年度程度の予防と対策の継続は必要です。「手洗い・消毒」、「マスクの着用」、「身体的距離」をもう一度見直しましょう。

「正常性バイアス」を回避するためには、私だけは大丈夫という感覚を捨てることです。私ができることをまずやろうという感覚をもつことです。緊急事態宣言下では、おおげさに考えて、やりすぎかなと思うくらいの対策をとることが正しいのかもしれませんが。



## 3 最後に…やはり大切にしたいこと

悪いのは、コロナウィルスです。かかった人ではありません。上中ではこの原則を変わず大切にしたいと思っています。ウィルスが目に見えるならば避けることができます。いくら気をつけていても目にみえないものを避けることはできません。

病気にかかっている人に対して普通にかける「お大事に」という言葉、回復した人にかける「よかったね」という言葉、忘れずにいたいものです。

